

平成 24 年度採択 申請区分Ⅰ ② 東京大学

「アジア都市環境保健学際コンソーシアムの形成」

●相手大学・機関

アジア工科大学院(タイ)、チュラロンコン大学(タイ)、タマサート大学シリントン国際工学部(タイ)、マヒドン大学(タイ)、インドネシア大学(インドネシア)、パジャジャラン大学(インドネシア)

●主な活動内容(概要)

●以下の3つの交流プログラムを実施している。

- ・ 3～4ヶ月の1学期間の交換留学の中で、単位互換による単位取得を目指す派遣・受入れのプログラム。
- ・ 2週間程度の短期研修の中で、単位付与による単位取得を目指す派遣・受入れのプログラム。
- ・ シンポジウムにおいて、各大学の学生を招待して行う学生セッションなど、単位付与を伴わない派遣・受入れのプログラム。

●医工連携のための各種取組みを実施している。

- ・ 都市環境保健に関する医工連携の集中(週2コマ形式)の講義など

●プログラムの現状・課題、成功事例

(単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等)

現状・課題

- ・ 毎年、予算削減を受けているため、来年度以降の学生交流数を含めた事業全体の縮小を検討せざるを得ない状況にある。
- ・ JASSO 奨学金が日本人にしか支給されないため、東京大学の正規課程に在籍し、プログラムに参加する外国人と日本人の間で参加経費の自己負担条件が異なり、プログラムに格差があるととらえる留学生がいる。
- ・ 交流相手国側には、日本側のような予算措置がないために、学生交換に関する経費の多くを日本側が負担している。ただし、交流相手大学の経費負担による学生の交換も少しずつではあるが増えている。
- ・ 交流相手側にも事務手続きが発生するが、留学に関する全ての学務・事務作業を無償で行ってもらっている。この状況は、交流数が増加しつつある中で円滑に進めていく上では障害となっている。
- ・ 交流相手大学との間に学事暦の違いがあり、単位互換のためには学期初めに学生の交換を行う必要があることから、学生交流の制約となっている。また、2015年度と2016年度は東京大学において学事暦を変更する予定であるため、相手大学と緊密に連絡を取り、学事暦が障害にならないように留意する。

成功事例

- 単位互換を目的とした学生の交流数が増加し、単位互換の実績を順調に増やしている。
- 年ごとに事務手続きに習熟しつつあり、学生の派遣・受入の事務も順調である。
- シンポジウムや教員の相互訪問、交流相手大学での講義などを通じて、相互の理解が進み、全体の交流学生数も順調に増加しつつある。

●学生交流数

	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
受 入	—	—	0	16	5	5	10	31
派 遣	—	—	3	10	9	32	10	33

(※) 予定含む